

栃木放送平成 22 年度第 3 回 6 月期定例番組審議会議事録

1 開催の日時 平成 22 年 6 月 22 日（火）午前 11 時

2 開催の場所 栃木放送本社会議室

3 委員の出席 委員総数 9 名
出席委員 8 名
欠席委員 1 名

出席委員名	委員 長	増 田 仲 夫
	副委員長	原 沢 佳 子
	委 員	鈴 木 正 好
	委 員	太 田 照 男
	委 員	宇賀神いづみ
	委 員	田 村 澄 夫
	委 員	安 納 守 一
	委 員	佐 藤 正 典
局側出席者氏名	代表取締役社長	栗 山 正 道
	報道制作局長	竹 澤 一 夫
	編成部長待遇	中 山 湖

4 議 題

- (1) 「ありがとうお母さん・ありがとうお父さん」について
- (2) その他

5 議事内容

- (1) 「ありがとうお母さん・ありがとうお父さん」について

試聴番組：「ありがとうお母さん」

①平成 22 年 4 月 28 日（水）16：45～16：48 放送

②平成 22 年 5 月 7 日（金）9：30～9：33 放送

「ありがとうお父さん」

①平成 22 年 6 月 7 日（月）12：30～12：33 放送

②平成 22 年 6 月 15 日（火）12：30～12：33 放送

議題説明：中山編成部長待遇

この二つの番組は、“母の日・父の日”にちなんで、リスナーから募集したメッセージを、パーソナリティの朗読で紹介した番組であること。お母さんへのメッセージの方が、お父さんへのメッセージより、倍近く寄せられたことなどを説明した後、番組を試聴した。

各委員からは

○良い企画だと思う。戦後、“お父さん・お母さん”と呼ばず、

“パパ・ママ”と呼ぶようになった。これは、教育の問題だ。ぜひ母国語を使ってほしい。キャンペーンに合わせて、“お父さん・お母さん”と呼びましょうと加えてもらいたいところだ。

お母さんへのメッセージが多いのは、母の思い出の方が強い。父は毛嫌いされるところがある。

○共感できる番組で、良い企画だと思う。お父さんの方は放送枠が少ないという説明があったが、応募者数が増えれば枠を増やすこともできるのか。提供社の問題もあるだろう。

(事務局⇒枠を増やすことはできます)

○ラジオだからこそできる企画。テレビだと照れくさいが、ラジオなら今まで言えなかったことも言える。顔が見えないので、ラジオを聞いている人それぞれが、どんなお父さんかお母さんか想像できる。

○投書者の年齢を紹介すると、もっとイメージが膨らむのではないか。

○新聞でも同じ企画をやった。応募者の傾向は、新聞もお母さんあてが多い。番組でのメッセージ募集にあたって、字数制限をしなかったそうだが、きょう最初に聞いたメッセージは、長かった。もっと短く、たくさん紹介したほうがいい。新聞も最初の年は字数制限をしなかったが今は制限した。

○川柳や俳句、短歌の形式で募集する方法もある。

お父さんお母さんをどう呼んでいるかアンケートしてみたらどうか。

○まだ2回目。急には増えないと思うが、学校への案内などPRをして続けて欲しい企画だ。かまえず気楽に応募できるように、川柳・俳句、短歌などは良い。

○メッセージを蓄積して、今後活用したい。

○メッセージをもとに、10分ぐらいのラジオドラマ化できないか。

○良かったと思う。アナウンスの仕方も良い。CMが少し気になる。

○採用された方には、どんなプレゼントをあげたのか。

○短くても良いので、本人の声のメッセージを紹介したらどうか。

などの意見が交わされた。

当社としては、これらの意見を参考に、今後の番組作りに取り組んでいきたい旨説明した。

(2) その他

22年度第4回7月期の審議会開催日を決めて閉会した。

以上